

会津史年表

文献には、信頼性に乏しいものがあります。すべてが史実とは限りません。随時追加修正中 文責 石田明夫

西 暦	年号	月日	内 容	文献	領主	支配
-28000~ 22000			この頃、会津若松市の笹山原遺跡群、笹山原A遺跡・No.7・8・10・11遺跡、小石ヶ浜遺跡で集落が営まれる。旧跡時代の遺跡が会津若松市湊町笹山原で集中的に営まれる。	発掘調査		
-13000			この頃、高郷村の塩坪遺跡が営まれる。	発掘調査		
-12000			この頃、縄文時代が始まる。		日本	
-7000			この頃、会津若松市の笹山原遺跡群で土器が出現する。	発掘調査		
-5000			この頃、塩川町の常世遺跡や会津美里町の北松沢遺跡が営まれる。	発掘調査		
-3500			この頃、会津美里町の胃宮西遺跡が営まれる。	発掘調査		
-2500			この頃、磐梯町の法正尻遺跡が営まれる。	発掘調査		
-2500			この頃、会津若松市大戸町の本能原遺跡で環状集落が造られる。	発掘調査		
-2000			この頃、西会津町の小屋田遺跡・上小島遺跡が営まれる。	発掘調査		
-1500			この頃、会津若松市大戸町の下川原遺跡、会津美里町の十五壇遺跡が営まれる。	発掘調査		
-1500			この頃、南会津町伊南の堂平遺跡、柳津町の石神遺跡・塩ノ半在家遺跡、猪苗代町の長坂遺跡が営まれる。	発掘調査		
-600			この頃、会津若松市大戸町の上雨屋遺跡が営まれる。	発掘調査		
-600			この頃、喜多方市の森台遺跡が営まれる。	発掘調査		
-400			この頃、三島町の荒屋敷遺跡が営まれる。	発掘調査		
-300			この頃、弥生時代が始まる。		日本	
-300			この頃、会津若松市の墓料遺跡、南御山遺跡で再埋葬が造られる。	発掘調査		
-200			この頃、会津若松市大戸町の上雨屋遺跡の集石墓群が営まれる。	発掘調査		
-100			この頃、会津若松市門田町の一ノ堰日遺跡、湯川町の川原町口遺跡が営まれる。	発掘調査		
-100			この頃、会津美里町の五本松遺跡が営まれる。	発掘調査		
0100			この頃、会津若松市の屋敷遺跡で弥生時代の遺構が造られる。	発掘調査		
0243			卑弥呼が、魏王に貢献をする。	魏志倭人伝	日本	
0290			この頃、会津若松市北会津町の田村山古墳、内行花文鏡が中国で作られる。	発掘調査		
0310			この頃、会津坂下町の杵ヶ森古墳(45.6m)が築かれる。	発掘調査		
0310			この頃、会津若松市一箕町の飯盛山古墳(65m)が築かれる。	測量調査		
0320			この頃、会津若松市一箕町の堂ヶ作山古墳(84m)が築かれる。	試掘調査		
0350			この頃、会津若松市一箕町の会津大塚山古墳(114m)が築かれる。	発掘調査		
0369	応神天皇		百済と結んで、新羅と戦い、加羅諸国を支配する。	日本書紀	日本	
0370			この頃、会津坂下町青津の亀ヶ森古墳(127m)が築かれる。	発掘調査		
0538			百済の聖明王が仏像、経典を伝える。	仏教公伝	日本	
0540	欽明元年		会津坂下町高寺、高寺山に梁の青岩が小庵を結び、高山無山寺と称し、高寺ともいわれた。	旧事雑考	陸奥	
0552	欽明13年		会津美里町の伊佐須美神社が、従五位下を授けられる。明神嶽に勧請される。	旧事雑考	陸奥	
0552	欽明13年		会津美里町高田松岸の手児神社が明神嶽に勧請される。	旧事雑考	陸奥	
0648	大化4年		647年に、ぬ足柵、648年に磐舟柵が築かれる。		日本	
0654			白雉年間(650-654)磐椅神社が草創する。	大伴修験	会津	
0686.1023	白鳳14年	10月23日	ある記に、10月23日夜、天が乱れ、星が雨のようになる。	旧事雑考	会津	
0690			この頃、会津唯一の古代瓦窯である会津若松市の村北瓦窯跡が操業する。	発掘調査	会津	
0690			この頃、須恵器窯の新田山窯跡(会津若松市河東町藤倉新田)が操業を開始する。8世紀前半で終了する。	発掘調査	会津	
0700			この頃、会津若松市河東町の駒板新田横穴群、一箕町の大塚山横穴群、会津美里町の逆瀬川横穴群、喜多方市山崎の山崎横穴群、会津坂下町の勝方横穴群が造られる。	発掘調査	会津	
0706	慶雲3年		大木村(喜多方市塩川町)が開発される。	新宮雑業記	会津	
0710			この頃、会津若松市河東町の郡山遺跡が営まれ、瓦葺きの建物が出現する。	発掘調査	会津	
0710			平城京へ遷都。		日本	
0712	和銅5年		出羽国が設置される。		日本	
0713	和銅6年		会津郡、耶麻郡と分かれる。新橋川を境に耶麻郡を置く。	旧事雑考	会津	
0713	和銅6年		会津郡、耶麻郡、会津郡主盛胤と書かれている。	大同類聚方	会津	
0713	和銅6年		会津郡、耶麻郡と分ける。	新宮雑業記	会津	
0715	和銅年間		和銅年間(708-715)磐椅神社が磐梯山に鎮座する。	大伴修験	会津	
0715	和銅年間		和銅の頃、喜多方小荒井村館を石川民部勝良が築く。	会津鑑	会津	

0715	和銅の頃		小荒井村館(喜多方市)、和銅の頃石川民部勝良着築き住す。新宮次郎広高の子、小荒井新助盛常居て坂井館と号す。応永の頃の事か、あるいは宝亀年中石川刑部築くという。	会津古壘記	会津
0718.0502	養老2年	5月2日	陸奥国より石城、石背の二国を分置し、会津郡は石背国に属す。	続日本紀	会津
0720	養老4年		得道上人、大沼郡に法用寺(会津美里町雀林)を建てる。	旧事雑考	会津
0724	神亀元年		多賀城が築かれる。		日本
0729	天平元年		松野(喜多方市)千光寺と西蓮寺が建てられる。	旧事雑考	会津
0730			この頃、会津若松市一箕町の船ヶ森西遺跡が営まれる。	発掘調査	会津
0730			この頃、会津美里町新鶴大久保の須恵器窯、大久保窯跡が操業を開始する。9世紀前半で終了する。	発掘調査	会津
0730			この頃、会津若松市一箕町の郷ノ原遺跡で集落が営まれる。	発掘調査	会津
0734	天平6年		猪苗代町の磐梯神社が中宮跡と伝えられ現在地に移る。	社伝	会津
0740			この頃、北塩原村北山の須恵器窯、入大光寺窯跡が操業する。8世紀後半で終了する。	発掘調査	会津
0743	天平15年		昔、一盃館あり、後に新宮城と改める、村は、昔小松村か原村という。吉田中将藤氏頼房がここに流されその子光房館を築き、一盃館と称する。応徳2年(1085)新宮村に改める。	会津鑑	会津
0760.0510	天平宝字4年	5月10日	徳一が生まれると『常州筑波誌』に書かれている。『南都高僧伝』「惠美大臣(藤原仲麻呂)息也」。『本朝高僧伝』「惠美大臣仲麻呂子」。『続日本記』「押勝息」。正嘉年間(1257-58)に常陸の僧住真が『私聚百因縁集』に「左大臣藤原卿惠美第四子」。二年(1294)に書かれた恵日寺善源の『恵日寺役記』には「得溢者惠美押勝男云」。死去は、承和半ば『恵日寺役記』、『僧綱補任』の承和元年(834)、『南都高僧伝』の承和2(835)がある。没日は『恵日寺縁起』には11月9日としている。	常州筑波誌	
0760			この頃、会津若松市大戸町の大戸窯が操業を開始する。(県指定史跡)	発掘調査	会津
0769.0313	神護景雲	3月13日	神護景雲3年、会津郡の人で、丈部庭虫ら二人、阿部会津臣の姓を賜わる。	続日本紀	会津
0775	宝亀6年		一時は、僧院三千余あった高寺が兵火にあい廃寺となる。	旧事雑考	会津
0780			この頃、会津若松市大戸窯の須恵器窯、南原33号窯が操業する。	発掘調査	会津
0781	天応元年		滝沢村(会津若松市一箕町)は昔堂家邑、藤原朝臣清足郷、堂家に流され、館を築く。子孫堂家というが、村は滝沢に改め、また、石部と名乗る。また、石塚といい黒河の中川原柵を作る。また天正の頃、横山監物義秀住す。	会津古壘記	会津
0782	延暦元年		新潟県阿賀町三川の西山日光寺が建てられる。(会津五薬師の一つ。鎌倉時代の会津若松市東山町の羽黒神社にあった仁王像が明治11年にこの寺へ移る)	旧事雑考	会津
0784			長岡京へ遷都。		日本
0784.1108	延暦3年	11月8日	戌(8時)から寅(4時)まで、星が走り騒ぐ。	旧事雑考	会津
0788	延暦7年		蝦夷征伐を開始する。		日本
0789.0603	延暦8年	6月3日	蝦夷征伐に、進士高田道成、会津社麻呂ら従軍して戦死する。	続日本紀	会津
0790			この頃、会津若松市高野町の矢玉遺跡が営まれ、9世紀末まで続く。	発掘調査	会津
0794			平安京へ遷都。		日本
0800			この頃、会津若松市大戸窯の須恵器窯、上雨屋12号が操業する。(県指定)	発掘調査	会津
0800			この頃、喜多方市の須恵器窯、小高原窯跡が操業する。9世紀中頃で終了。	発掘調査	会津
0802			坂上田村麻呂が胆沢城を築く。翌年紫波城を築く。		日本
0805.1207	延暦24年	12月7日	藤原緒嗣と参義の菅野真道が、桓武天皇へ蝦夷征伐と造都の中止を建議する。		日本
0806	延暦頃		この頃、大江村壘(会津坂下町大江)、官司飛鳥少輔藤氏実基住す。これより大江庄という。後に大江氏いて、天文頃大江兵部居る。	会津古壘記	会津
0805	延暦24年		最澄天台宗を開く。		日本
0806	大同元年		空海、真言宗を開く。		日本
0806	大同元年		高田(会津美里町)竹原に大沼明神が草創される。大沼郡の名はこの沼に由来。	旧事雑考	会津
0806	大同元年		山都小布瀬に堀内という者により大日寺が建てられる。	旧事雑考	会津
0806	大同元年		野沢の金剛山妙法寺(如宝寺)に徳一太師が観音像を安置する。	新宮雑葉記	会津
0806	大同元年		寺内村柵、大同元年官司代官堀内主計景信築いて住す。	会津古壘記	会津
0807	大同2年		磐梯山が出現し、耶麻郡更科・月輪二庄が没し、湖が出来る。	新宮雑葉記	会津
0807	大同2年		この頃、湯川村の勝常寺、国宝薬師三尊が作られる。	国宝	会津
0807	大同2年		平城天皇の命により、八田野稲荷原で祈禱をし、大寺を構える。徳一が、五薬師を安置。東が恵日寺、西は日光寺、北は大正寺、南は火玉堂寺、中央は勝常寺。僧坊300余、子院3600余という。徳一、柳津の円蔵寺を建てる。	旧事雑考	会津
0807	大同2年		会津若松市門田町一ノ堰の磐梯神社が創建される。	社伝	会津
0807	大同2年		徳一が柳津の円蔵寺を建て、虚空蔵菩薩を安置する。	旧事雑考	会津
0807	大同2年		徳一が大野村(柳津町)に光泉寺を建て、六地藏を安置する。	旧事雑考	会津

0807	大同2年		徳一が高田（会津美里町）仁王村に仁王寺を建て、薬師と十二神将を安置する。	旧事雑考	会津
0808	大同3年		会津郡、耶麻郡、会津郡主盛胤と書かれている。	大同類聚方	会津
0808	大同3年		坂上田村麻呂が恵隆寺を建てるといふ。今の恵隆寺の地には金塔があったという。	旧事雑考	会津
0809	大同4年		伊佐須美神社の神器が造られ、大旦那義清が納める。（現在無し）	旧事雑考	会津
0810	大同年間		郡山市湖南町福良の鶴山壘、土子美作守築く。正治のころ和田大隈、永正の頃山崎刑部太輔、天正の頃金子主計宗俊が居る。	会津古壘記	会津
0810.09	弘仁元年	9月	法相宗興福寺の修円（徳一の師）が官僧の僧綱に任じられる。以後承和元年（834）まで勤める。また、興福寺別当、小僧都に補せられる。『元享釈書』『東国高僧伝』に徳一が「学相宗干修円」。『本朝高僧伝』『随興福寺修円僧都集法相旨』。『筑波誌』には「五歳の時父押勝誅に遭うや修円の下に投じて出家」。『百因縁集』『元西大寺の沙門にて家を尋ねれば藤原恵美第四男』『集因和尚血脈の弟子、和国神野山にて励ます』とある。（徳一は生年からすると修円より年上のため疑問もある。）	僧綱補任	
0810	弘仁元年		逆瀬川（会津美里町佐賀瀬川）の興隆寺と白山権現が建てられる。	旧事雑考	会津
0810	弘仁元年		新鶴（会津美里町）米沢に法幢寺が建てられる。	旧事雑考	会津
0810	弘仁元年		勝常寺開山という。	寺伝	会津
0811	弘仁2年		会津若松市蚕養町の蚕養神社が創建される。	社伝	会津
0812	弘仁3年		大塩邑に石用山長泉寺が建てられる。ある記に、この年柳津が建てられるという。	旧事雑考	会津
0813	弘仁4年		沙門空海が奥州にいた徳一へ手紙をだし「奥州徳一菩薩法前、謹空」と敬意をはらう。	空海書簡	
0813	弘仁4年		漆邑（北塩原村）の大正寺の裏山に梵字が刻まれ、薬師像が安置される。	旧事雑考	会津
0814	弘仁5年		ある記に大寺が建てられるという。	旧事雑考	会津
0815			9世紀前半頃、恵日寺の造営が進む。	発掘調査	会津
0815.0405	弘仁6年	4月5日	空海、徳一に書を送り、新宗の普及の親書を送る。徳一は、「真言宗未決文」で真言宗を批判する。	高野雑筆集	会津
0817.02	弘仁8年	2月	最澄が、三一・権実の論争で、徳一の批判に答える。	照権実鏡	会津
0817	弘仁8年		最澄が「奥州会津泉益（徳一）和上」と書き徳一が会津郡にいたことを示す。	守護国界章	会津
0820			この頃、会津若松市一箕町の上居合遺跡の集落が営まれる。	発掘調査	会津
0824	弘仁年間		弘仁年間（810-824）磐梯神社（猪苗代町）が現在地に移る。	大伴修験	会津
0824.0727	天長元年	7月27日	徳一菩薩、大師と号す。恵日寺より常陸に下る。年76歳、常陸国に中善寺を建立。	南都高僧伝	会津
0824	天長元年		堂島村館（会津若松市河東町堂島）、大寺の侍、佐瀬権太郎精光住す。	会津古壘記	会津
0830.0414	天長7年	4月14日	本郷に左下観音が安置される。	旧事雑考	会津
0830			この頃、会津若松市高野町の上吉田遺跡、門田町の運動公園遺跡が営まれる。	発掘調査	会津
0830			この頃、多具郷の推定地である東高久遺跡（会津若松市神指町高久）で集落が営まれ、寺院が建てられる。	発掘調査	会津
0830			この頃、会津若松市北会津町の間宮出土浄瓶が大戸窯で焼かれる。	発掘調査	会津
0834	承和元年		大寺村館（磐梯町大寺）、官司藤原少将道実住す、天文の頃酒井兵内居る。	会津古壘記	会津
0834.0613	承和元年	6月13日	徳一の兄弟子、法相宗修円が亡くなる。廟は奈良の室生寺にしあり。	僧綱補任	
0835.0613	承和2年	6月5日	徳一の兄弟子、法相宗修円が亡くなる。	法相宗派図	
0838	承和5年		会津若松市高野町の矢玉遺跡が営まれ、ここで郡符木簡などが書かれる。	発掘調査	会津
0840			この頃大戸窯最盛期、須恵器窯の南原19号窯が操業する。	発掘調査	会津
0840.0304	承和7年	3月4日	耶麻郡大領丈部人麻呂ら上毛野陸奥公の姓を賜わる。	続日本紀	会津
0842	承和9年		徳一「維麻会講師、同年六十二卒」とある。ただし、奈良にはいいっていない。	法相系図	
0843.0905	承和10年	9月5日	伊佐須美神社が、従五位下を授けられる。	続日本後記	会津
0848.0414	嘉承元年		会津美里町高田に龍興寺が建てられる。	旧事雑考	会津
0850			この頃、会津若松市町北町の屋敷遺跡12号土坑出土、大戸窯産長頸瓶が焼かれる。	発掘調査	会津
0851	仁寿元年		奥州に赤い雪が降る。	旧事雑考	会津
0855.0128	斉衡2年	1月28日	猪苗代の石椅神が従四位下を授けられる。	文徳実録	会津
0860			この頃、喜多方市塩川町内屋敷の寺院が建てられ、瓦塔が作られる。	発掘調査	会津
0870			この頃、会津若松市の屋敷遺跡で1町四方の区画溝が掘られる。	発掘調査	会津
0880			この頃、会津若松市高野町の西木流遺跡で集落が営まれる。	発掘調査	会津
0887	仁和3年		猪苗代酸川野に神野寺が建てられる。	旧事雑考	会津
0897	寛平		寛平年間に、会津若松市門田町の門田条里制跡出土倉札木簡が書かれる。	発掘調査	会津

0890	寛平2年		円覚法印が、会津美里町竹原に大沼明神の別当として今泉寺を建てる。	旧事雑考	会津
0893	寛平5年		万葉集に会津嶺の歌が歌われる。	万葉集	会津
0910			この頃、大戸窯須恵器窯の南原73号窯が操業する。	発掘調査	会津
0923	延長元年		会津城、すなわち鶴ヶ城の始まり。	会津鑑	会津
0924	延長2年	3月13日	会津美里町左下、左下り観音の頭無観音が安置される。	新宮雑葉記	会津
0927	延長5年		延喜式が成る。式内社として、会津郡は伊佐須美神社が名神大社、蚕養国神社。耶麻郡は磐椅神社が載る。郡名に、会津郡、耶麻郡が載る。	延喜式	会津
0935	承平5年		平将門の乱、伯父の国香を殺害する。		日本
0935	承平5年		和名抄成る。郡名に会津、耶麻、大沼が載る。白河郡から大沼河沼二郡が分かれたとある。会津郡には、伴々、多具、長江、倉精、菱方、大島、屋代、大江、余戸、の郷名が載る。耶麻郡には、津部、量足とあり、重複して耶麻郡には、分会、津部、日量の郷名が載る。	倭名類聚抄	会津
0950			この頃、大戸窯須恵器窯の上雨屋7号窯が操業する。	発掘調査	会津
0964	康保元年		空也上人、会津若松市河東町冬木沢に八葉寺を建てる。	旧事雑考	会津
0972. 0911	天禄3年	9月11日	康保2年(965)11月13日空也上人が平安京を出発して、出羽奥州で布教をし、会津黒川で臨終し、八葉寺に葬られる。	空也上人絵詞伝	会津
0980			この頃、大戸窯の南原54号窯が築かれ、その窯をもって須恵器窯が一時操業を停止する。	発掘調査	会津
0988	永延2年		会津坂下町の船渡村壘、雲雀城、城四郎重範が築く。	会津鑑	会津
0988	永延2年		船渡村壘、雲雀城という。城四郎重範築く。8館の内。家臣の加佐間七郎を置く。正暦2年(992)に死す。天正の頃壘の麓に家を作り住す。	会津古壘記	会津
0988	永延2年		喜多方市大沢の大沢村館、外島館という。昔この村外島村という。城四郎重範8館の内。後に新宮主水則時住す。その子、外島兵部頼俊住す。寛正3年(1462)大沢村と改め家臣の加佐間五郎を置く。	会津古壘記	会津
0988	永延2年		会津坂下町の窪村壘、久山城と号す。8館の内。家臣長谷川五郎を置く。	会津古壘記	会津
0988	永延2年		会津坂下町の新館村壘、田中城とも号す。8館の内。家臣猪俣小六を置く。	会津古壘記	会津
0988	永延2年		会津坂下町の永井村壘、花城と号す。永延2年城四郎重範築く。8館の内。家臣星三郎を置く。	会津古壘記	会津
0988	永延2年		会津坂下町の南宇内村壘、陣峯城と号す。8館の内。家臣沖野太郎を置く。	会津古壘記	会津
0988	永延2年		会津坂下町の大原村壘、福富館と号す。昔、下原村という。8館の内。家臣安倍次郎を置く。後、大原兵庫政行住す。	会津古壘記	会津
0988	永延2年		柳津町の藤村猿辰城、槻木森山にあり。永延2年城四郎重範築いて完成せず討死する。	会津古壘記	会津
0989	永延の頃		この頃、平井村館、大寺恵日寺の代官佐藤佐渡守宗顕住す。	会津古壘記	会津
1012	寛弘年中		猪苗代町の白木城普恵日寺の持ち城成り。寛弘年中安田越中居る。天正の頃三浦盛勝居る。	会津古壘記	会津
1018	寛仁2年		星勝身、会津川東岸(会津若松市河東町柏原)に権現堂を建てる。	新宮雑葉記	会津
1021	治安元年		会津若松市門田面川の面川邑館。永井淡路行広築き。その後松本源兵衛安石居る。	会津鑑	会津
1024	万寿元年		恵日寺が炎上する。	旧事雑考	会津
1051	永承6年		前九年の役		日本
1055	天喜3年		源義家が、熊野堂村(会津若松市河東町熊野堂)に熊野三社を勧請する。	旧事雑考	会津
1055	天喜3年		源義家が、会津坂下町の塔寺八幡宮を建てる。	新宮雑葉記	会津
1057. 0603	天喜5年	6月3日	源義家が、会津坂下町の塔寺八幡宮を修造する。	新宮雑葉記	会津
1057	天喜5年		源義家が、熊野三所を熊野堂村(会津若松市河東町熊野堂)に勧請する。	新宮雑葉記	会津
1062	康平5年		熊野堂村の熊野三社が新宮(喜多方市新宮)に移される。	旧事雑考	会津
1062	康平5年		源義家、木流(会津若松市高野町木流)の馬頭観音又は塩川駒形原の観音を安置する。	新宮雑葉記	会津
1062	康平5年		会津若松市河東町熊野堂の熊野堂村館、源義家の長臣、大宅光房が築く。後に斎藤大蔵少輔俊長住す。天正の頃、佐瀬平右衛門盛光が住す。	会津古壘記	会津
1064	康平年間		会津若松市門田町南御山の御山村館、尾山三峯城或いは、御山館、源義家年越してまで居る。	旧事雑考	会津

1080.1019	承暦4年	10月19日	陸奥国司が、太政官に会津、耶麻郡の二郡で会津一国にするよう願い出る。堀川左大臣俊房が書きとめる。	左水記	会津
1083	永保3年		後三年の役		日本
1084	永保年中		喜多方市塩川町の金川柵、石井修理惟仁築く。その子の内、丹後惟治が居る。	会津古壘記	会津
1085	応徳2年		源義家、熊野三所を耶麻郡に草創し、名を新宮（喜多方市新宮）とする。	新宮雑葉記	会津
1086	応徳3年		白河上皇の院政が始まる。		日本
1090	寛治4年		家衡ら羽州伊北の城に居る。義家これを攻め、会津の御（尾）山に帰る。	会津鑑	会津
1097	承徳元年		会津若松市河東町冬木沢の八葉寺側に融通寺が建てられる。現在堂跡の礎石あり。	旧事雑考	会津
1100.0909	康和2年	9月9日	源貞明、南会津町田島の熊野神社に御正体を奉納する。	銘文	会津
1103.0610	承和5年	6月10日	陸奥国の伊佐須美神社などが占いをする。	朝野群載	会津
1105	長治2年		藤原清衡、中尊寺を建立。		日本
1110			この頃、会津坂下町の雷神山経塚出土渥美産壺が作られる。	発掘調査	会津
1120			この頃、会津坂下町宇内の陣ヶ峯城が営まれる。13世紀前半頃に廃止される。	発掘調査	会津
1121	保安2年		長治2年(1105)からこの年まで、藤原忠実が関白となり、澁河庄が所領となる。	近衛家目録	会津
1130.0402	大治5年	4月2日	喜多方市松野千光寺経塚を平孝家、源俊邦らが築く。	銘文	会津
1139.0804	保延5年	8月4日	西会津町の如法経筒を、聖人静賢、日奉近貞らが奉納する。	新編風土記	会津
1154	久寿元年		黒川（会津若松市）の延寿寺の熊野宮に神器が納められる。	旧事雑考	会津
1154.0520	仁平4年	5月20日	磐梯町、美濃守藤原朝臣家長恵日寺へ晴雨経を納める。	旧事雑考	会津
1160	永暦元年		いわき市、白水阿弥陀堂が建てられる。		県内
1167	仁安2年		平清盛、太政大臣なる。		日本
1170	嘉応2年		藤原秀衡、鎮守府將軍に任じられる。		日本
1171.0222	承安元年	2月22日	喜多方市、新宮熊野神社御正体が地頭代藤原知盛、平国村が奉納する。	旧事雑考	会津
1176	安元2年		会津坂下町、田村柵、黒沢尻右衛兵衛尉正房、この人、安倍頼時四男正任の子、小五郎正勝の二男なり。会津に逃れ、恵日寺のに仕え、村田を領する。それより28代、村田文治右衛門房長、天正17年浪人となる。	会津古壘記	会津
1179.08	治承3年	8月	喜多方市、新宮の前殿に僧伊勢が4尺5寸の鰐口を奉納する。	新宮雑葉記	会津
1181	治承年中		会津美里町の橋爪村玉井壘、治承年中玉井若狭守築いて住す。その後、分部兵部少輔盛代居る。その後、薄伊豆守頼方居る。享徳の頃、芳賀将監居る。明応の頃佐久新三郎忠常住す。	会津古壘記	会津
1181.0701	養和元年	7月1日	6月13日、14日信濃国で城助茂（長茂）が戦い破れ、九千余人で越後に帰る。本国に返っても在庁下役人が反乱し、藍津之城へ籠もろうとしたが、平泉の藤原秀衡が郎従を派遣し、押領されたので、佐渡国に逃れた。	玉葉	会津
1182.0902	寿永元年	9月2日	城四郎長茂、木曾義仲追討のため越後、出羽、会津の兵4万余を引率して信濃国へ出発する。	平家物語	会津
1182.0909	寿永元年	9月9日	城四郎長茂、信濃国横田川原で戦い破れる。会津の乗丹房も討たれる。	平家物語	会津
1182	寿永元年		この頃、恵日寺と高寺が論争し、城四郎長茂、恵日寺と心を合わせ、高寺を滅ぼす。	新宮雑葉記	会津